

# 近文簡易教育所跡

(ちかぶみかんいきょういくしょあと)



【所在】

鷹栖町 17 線 13 号

【指定年度】

昭和 63 年

【標柱建立】

平成 2 年

## 佐々木ひわ氏の努力

明治 29 年 4 月、静福寺開基坊守として入植した佐々木ひわは、開拓者の強い要請により明治 33 年 5 月、鷹栖村 17 線 13 号（朝倉米次郎宅地）に拝み小屋を建て、子弟の教育に当たった。

11 線 6 号からおよそ 15 km、道なきところ子どもを背負って通ったひわの熱意には、ただただ敬服するばかりであった。

この寺子屋式教育は、翌 34 年 8 月 17 日に近文簡易教育所と名も変え、新しく発足した。後に、明治 38 年 3 月 30 日には 17 線 12 号に移し、近文第五尋常小学校（旧鷹栖中央小学校）に昇格した。

【近文（ちかぶみ）】

古くはチカフニ、チカワウニなどとも書いた。上川地方中央西部石狩川中流右岸。地名はアイヌ語、チカフニは「大鳥のいる処」の意に由来する。明治 39 年～昭和 47 年間の鷹栖町の行政字名。